

若い視点で「農業×障がい」にゼロから挑む

都心のベッドタウン化も進む筑波研究学園都市ですが、その足元には遊休農地も目に留まります。「ごきげんファーム」はこの地で6.2haの農場と1haの体験農園を展開。近隣の個人客を対象とした「野菜セット」(1,500円)の契約販売事業で、月200万円を売り上げています。

Data

認定NPO法人 つくばアグリチャレンジ
ごきげんファーム
茨城県つくば市



一念発起し、社会起業！

「ごきげんファームは6年前、つくば市に発足したNPO法人が運営する農場です。野菜の栽培・販売を中心とした事業に、45名以上の障がい者が従事しています。〈夏場の作業効率アップと冬場でも栽培できる環境〉を実現するために、当財団の助成を得てビニールハウス3棟、小型トラクター、1トントラックを整備しました。

「現在は品目で言うと50種くらい。でもネギだけでも8種類くらい作っているの、敵密な品種数だと、すこし前に数えたときには128でした。この中から旬の野菜を7〜8つほどまとめ、『野菜セット』という形で定期的に近隣450世帯に配送する契約販売をしています」と語るのは、NPO法人の副代表理事で農場長を兼務する伊藤文弥さん。28歳の若き、ファームのリーダーです。

伊藤さんがこの世界に飛び込んだきっかけは大学2年生のとき。筑波大学で化学を専攻していたものの、化学より政治に関心があつたという伊藤さんは、たまたま地元市議のインターンシッ

プに参加。期間はたったの2カ月でしたが、市議の手伝いで〈農業と障がい者〉のテーマを調べることに。障がい者の置かれている現状が分かるにつれ、「他人事ではない」と思うとともに、障がい者の給料の低さに衝撃を受けました。

農業成功、商売失敗

「障がい者は働く場がない。片や地元の農業は深刻な担い手不足。だったら、この2つをいっしょにすればハッピーになれるんじゃないか？」翌年から準備を始め、大学4年生のときには市議とともにNPO法人を設立。卒業と同時に事業をスタートさせました。

しかし、つまりは早かったと言います。

1・2haの農地で最初に作ったのはホウレンソウ。化学肥料を使用する慣行農法で、「完全なるビギナーズラックですけど、すごくおいしかったんですよ。でも売れなかった」ホウレンソウは競合が多すぎたと判断し「つぎにチコリとかバタナツといった珍しい野菜を作ることにしました」直売会では誰もが興味を示すものの、調理の仕方も分からない新顔野菜はやはり売れません。そ



①助成で整備したトラクターでマルチを貼るのは利用者の益子さん ②選果場で「野菜セット」の袋詰め。ファームでは1年間を通して、野菜が途切れることのないよう多品種を並行栽培している ③スナップエンドウは収穫の季節 ④農場長の伊藤文弥さん ⑤この日の作業の一つは、サトモ畑の早取り ⑥助成で整備したビニールハウス、トラック、トラクターの前で全員集合

こでたりついたのが契約栽培の受託です。

プロに頼って、疲弊から成長へ

「それでやっと売れるようになったんですけど、そこからが一番の暗黒時代になりました。仕事が追いつかず、社員は夜中まで作業に追われ、バタバタと辞めていきました」。

障がい者の活躍が第一だったはずなのに、「売らなきゃいけない」に縛られすぎ、組織は疲弊の一途をたどったのです。それで4年前、「設立当初の原点に立ち返り、農業を通じて地域と障がい者の壁を取り除きたい。そのためには、地域のお客さんと直接つながることのできる今の少量多品種の有機栽培をやろう」ということになったんです。

品目が増えれば、これまでの自己流にも限界

が生じます。改めて実績のある農家と契約し、2

年かけて実践的なノウハウを学びました。その効果は絶大で途端に作業のムダが減り、収穫も安定するようになりました。「本屋に並ぶ指南書は家庭菜園向けがほとんどです。プロの教えは大事だと痛感しました」ソーシャルベンチャーを支援するNPOなどにも積極的に助けを求め、農業以外にも販売促進や顧客管理システムといった面の見直しを着実に進めました。その甲斐あって、いまでは月850セットを売り上げ、フルタイムで働くB型利用者は月平均約35000円の給料を得ています。

「1000セットを達成したら、みんなでディズニランドに行く約束をしています。僕はもう今年中に行くと決めていますけど」。

「ごきげんな笑顔が弾けるその日は目前です」。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 25

ヤマト運輸労働組合
茨城支部執行委員長
松本 三智夫 さん



働く人全員が「ごきげん」で いられるように。

私たち労働組合は、障がい者の自立と社会参加の支援、交通遺児の支援を目的に、毎年「夏のカンパ」に取り組んでいます。ごきげんファームさんのような有意義な使われ方を拝見して、今年も頑張らねばと改めて感じました。

茨城管内でも障害者手帳をお持ちの方が34名いらっしゃいますし、ポスト投函を引き受けて下さる障がい者施設の方もいます。みなさん、仕事熱心で挨拶もしっかりされる頑張り屋の方々です。仕事に対する情熱や喜びは同じだと思いますので、病気や怪我のないよう、励んでいただきたいと思います。

